資料10

タイトル：高齢者に知られていない視聴覚障害者等向け放送　みんなで字幕放送、解説放送利用促進に取り組みましょう！

老テク研究会　近藤則子

1ページ目

老テク研究会は30年前に過酷で孤独な在宅介護を改善したいと願ったふたりの主婦が始めたボランティア活動です。

在宅介護改善の鍵はICTにあると確信し、活用できれば最もその恩恵を受けられる高齢者や障碍者のための無料ICT講座や講師養成講座を実施し、テキストなどをNPOブロードバンドスクール協会のサイトを通じて公開しています。

２ページ目

現在は国内外のシニアネットといわれる高齢者のパソコンボランティア団体や自治体、非営利団体,企業のお友達と連携しながら、ICT教室や電脳ひな祭り、スマートエイジングフォーラムといったICTイベントを開催しています。今年の3月の第２０回電脳ひなまつりのために８２歳の若宮正子さんがつくってくれたゲームアプリ「ひなだん」が世界的なニュースになりました。

３ページ目

アップルのクックCEOから世界最高齢のプログラマーと称賛された若宮さんは内閣府の人生100年構想会議に有識者のひとりとして参加して、政府の方々へ高齢者へのICT教育の重要性を提言しました。

若宮さんは「パソコンを無料で配るだけではだめで、だれもが使えるように教育の機会を確保し支援してほしい。」と訴えました。

４ページ目

老テク研究会は在宅介護の困難さの理由のひとつに要介護者の障害、特に難聴で会話がしにくいことにあると考えて、若い聴覚障害のある方からその克服方法を教えていただきました。

教えていただいたメールやチャット、字幕放送を利用できるように地域の老人会や自治会、高齢者大学などで紹介しています。

9月に開催された第1回日本エンドオブライフケア学会学術集会では、看護師さんを中心とした医療や福祉の専門職の方に対し、最後の医療を受ける患者さんは重い障害がありますから文字だけではなく、表情やしぐさで意思疎通ができる映像コミュニケーションを楽しめるビデオチャットの有用性を紹介し、学会誌にも投稿しました。

５ページ目

約３年後には世界の12億人が６０歳以上といわれています。世界のシニア市場は拡大中です。

加齢にともなう視聴覚障害を補う情報通信技術を活用することで認知症予防になると私たちは考えています。

老テク研究会はデジタルテレビ、パソコン、スマートフォンといった端末のもつ情報バリアフリー機能をどうしたら高齢者に届けることができるのか、研究　実践してきました

６ページ目

この研究会に参加するのは３回目ですが、過去にも何度か高齢者のデジタルテレビの情報バリアフリー機能の認知度の低さをお話ししてきましたが、9月に参加した私の住む横浜市と遠距離介護中の香川県の高齢者の声をご紹介します。

私は自治会の役員や民生委員を経験し、現在は横浜市都筑区の消費生活推進員地区代表として各地区の啓発講座に参加しています。

どの会合でも３０人から40人くらいの４０代から８０代の中高年の方が集まります。

9月の３つの会合で100人以上の方にうかがったところ

テレビの字幕ボタンがあることを知っているのは約3割

テレビの字幕放送を利用している人は１割以下。

解説放送を知っている人は1割以下でした。

７ページ目

スマートフォンの利用者でラジオが聞けるアプリを知っている人も１割でした。

７０歳以上と思われる方にうかがうと字幕放送を知らなかった。聞こえにくいので使ってみると喜んでくださいました。地デジ移行の時に全国で字幕放送や解説放送についてご紹介があったはずですが、継続して広報しましょう

今月は急増中のテレビショッピングの通販トラブルのアンケートを実施するので、字幕放送についても紹介しています。

８ページ目

ぜひ、放送局の皆さまは字幕放送、解説放送を利用するためのボタンの使い方を番組の中でくりかえし、お知らせしてください。

民放のBSでたくさん放送されているテレビショッピング番組の字幕放送は大きな文字でわかりやすく、すばらしいです。

ぜひ通常の番組にもすべて字幕をつけてくださるようお願いします

９ページ目

お礼

以上